

65

春を告げる大群生地

大平の福寿草

福寿草は、日本では北海道から九州にかけて分布し、初春に黄色い花を咲かせることから元日草や朔日草の別名を持つ。上矢作町の達原・大平地区には約40㍍にわたり福寿草の自生地がある。この自生地は、今から300年ほど前に大平地区の先祖が赤石山系から持ち帰り移植したものといわれている。開花時期は毎年3月中旬から4月上旬。最初は中央に大きな花が咲き、順次下枝へと小さな花が咲いて移っていく。開花期間中は一般開放され、多くの人が訪れる名所となっている。福寿草の花言葉は「幸せを招く」。



大平の福寿草

ひとくちメモ

- 大平の福寿草のもう一つの説として、1570（元亀元）年の上村合戦で武田軍の美濃侵略の時、心臓に持病のあった武田信玄の強心剤として持ち込まれ、それが自生したという説もある。

関連項目

- 上矢作ラ・フォーレ福寿の里（P26）
- 福寿の里モンゴル村（P26）

66

「飛騨美濃さくら33選」に選ばれたサクラ

恵那市のサクラ

恵那市内には「飛騨美濃さくら33選」に選定された串原の「ひよもの枝垂れザクラ」や上矢作の「新田の桜」など多くのサクラの名所がある。

「ひよもの枝垂れザクラ」は樹齢250年ほどで、根周り約6㍍、幹囲約4㍍、樹高・枝張りとも20㍍を超す巨木で県の天然記念物にも指定されている。「新田の桜」は樹齢450年ほどで、根周り約6.8㍍、幹囲約4.4㍍、樹高24㍍の巨木である。

このほか市内には、恵那峡のサクラ・土々根のしだれザクラ（大井町）、大名墓地のサクラ・吉田川経塚の枝垂れザクラ（岩村町）、釜屋の枝垂れザクラ（山岡町）、八斗蒔の彼岸ザクラ（明智町）、奥矢作湖畔のサクラ（串原）など多くのサクラの名所がある。



ひよもの枝垂れザクラ



新田の桜

ひとくちメモ

- 新田の桜は、持ち主の熊谷氏が屋敷の周りにさし木で2世の木を二十数本まで増やし、濃いピンク色の花が咲く満開期には多くの人がサクラの見学に訪れている。

関連項目

ササユリ

ササユリは、日本を代表する花。本州中部以西、四国、九州に分布する。名前は、葉がササに似ていることに由来する。生育環境は、夏涼しく、乾燥したやせた土地を好み、冬の厳しい寒さにさらされて初めて春に発芽する。このため、栽培は難しいとされている。この地域は、ササユリの生育環境に適していたため、日当たりの良い山の裾野に淡い薄紅色の花を咲かせる。特に山岡町、串原には群生地があり、大切に保護されている。2005（平成17）年に市の花に制定された。



ササユリ

ひとくちメモ

- 山岡町のイワクラ公園内にササユリの群生地があり、地元の皆さんにより保護活動が進められている。
- また、この公園内にはカタクリの群生地もある。

関連項目

・ささゆりの湯（P45）

シデコブシ

シデコブシは、愛知県、岐阜県、三重県の一部に分布するモクレン科の落葉小高木。湿地周辺を好んで生育するため、丘陵地で湿地が多い東濃地域には、シデコブシの自生地が多くある。日本固有種であり、生きた化石とも呼ばれるほど貴重なもので、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。シデコブシの名前は、その花の形が神事の四手^{しで}に似ていることに由来する。市内には、市の天然記念物に飯地町大根シデコブシ自生地と岩村町飯羽間のシデコブシ自生地が指定されている。特に飯地町のシデコブシ自生地は、分布域の中で最も標高が高いところに位置している。



シデコブシ

ひとくちメモ

- シデコブシ、ハナノキ、ヒトツバタゴの3種は、そろって東海地域の限られた地域を中心に自生する氷河時代の遺存植物で、絶滅危惧種である。このため、東海丘陵要素、あるいは周伊勢湾要素の植物群と呼ばれ、近年研究の対象となっている。

関連項目

・ハナノキ（P34）・ヒトツバタゴ（P35）